

機関番号：12612

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010年度

課題番号：20520493

研究課題名（和文） 自律的学習者を育てる英語多読・多聴授業の開発と普及

研究課題名（英文） Development and Propagation of Extensive Reading and Listening Approach as a Means to Nurturing Independent Learners

研究代表者

酒井 邦秀 (SAKAI, Kunihide)

電気通信大学・情報理工学部・准教授

研究者番号：80092609

研究成果の概要（和文）：幼児用の絵本からはじめる英語多読及びその朗読 CD による多聴授業により、学生は学校英語を忘れてゼロから英語を英語のまま吸収し始め、一人一人が自分に合った内容とレベルの素材を選んで読み、聞く自律した学習者となった。また、一人一人の多読多聴状況を授業中に教師が英語で質問し、学生がそれに英語で答えることにより、extensive speaking の効果も確認された。また、英語による学生同士の book talk と、それを書く事により、extensive writing の成果も確認できた。

研究成果の概要（英文）：Starting with children's picture books with no words in them, students got rid of English as a Foreign Language (EFL) and started to read and listen materials of their own choice and level, thus transforming themselves into independent learners. Brief talks in English with the teacher about their reading and listening tasks during the class hours, students also benefitted from extensive speaking. Through writing down their book talk, students developed the extensive writing skill as well.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：英語教育

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：tadoku, 多読, 多聴, 多話, 多書, extensive listening, extensive reading, extensive speaking, extensive writing,

## 1. 研究開始当初の背景

酒井邦秀による 25 年間の多読研究及び多読授業研究を踏まえた。

本研究の「多読・多聴」は基本的に米国の言語学者 Stephen Krashen の Input Hypothesis に近く、日本でも 1980 年代からすでに Extensive Reading として知ら

れてきた方法に近い。また、英国エジンバラ大学では、Edinburgh Project on Extensive Reading (以下 EPER) があり、多読教材のレベル分け、多読開始のためのプレースメント・テスト、達成度テストの開発などを行っている。さらには日本でも東京学芸大学の金谷憲ほか永年

にわたって多読を授業に取り入れようとしてきたほか、ハワイ大学の Richard Day、文教大学の Julian Bamford の二人による多読授業に関する著書もケンブリッジ大学出版局から 2 冊出版されており、うち 1 冊は『多読で学ぶ英語—楽しいリーディングへの招待』（松柏社）として翻訳され、英語教育関係者の参考に供されている。以上のどの研究も「たくさん読む」ことの利点を強調したものである。

しかしながら、本研究の多読は国内外の上記多読研究、多読授業とは大きく異なる点がいくつかある。もっとも大きな違いは「大量に読むこと」と「きわめて平易な絵本から読みはじめること」である。この 2 点の違いから、学習者がペーパーバックを日本語のように気軽に読めるようになるまでの総読了冊数が大きく違ってくる。たとえば多読指導研究ではもっとも組織立っていると思われる EPER では、入門段階からペーパーバック直前まで 8 レベルに分かれており、各レベル 1 2 冊程度を読んで上のレベルに上がる。すなわち学習者の総読了冊数は 1 0 0 冊程度である。これに対して、本研究の想定する冊数は EPER の最高レベルまでに、その 1 0 倍すなわち 1 0 0 0 冊程度を読むことになる。これは日本の学習者が和訳せずに読めるレベルは極めて低いところにあり、大学生や社会人といえども多読初期にやさしく薄い本を大量に読むからである。

また、これまでの研究成果は幸いにして教育現場でも少しずつ受け容れられており、本研究代表者は 2006 年に茨城県立高萩高等学校と東京都立千早高等学校の SELHi 運営委員に任命され、多読・多聴をカリキュラムに組み込むための助言と指導をしてきている。そのほかにも沖縄から北海道まで全国各地の中学、高校、高専、大学で多読・多聴授業がはじまっており、2006、2007 年度には本研究代表者の訪問校は年間 20 校を超えるに至った。加えて、本研究代表者の多読・多聴授業を見学に来る英語指導者は毎年 50 人を越える。これに鑑み、2008 年度以降は本研究代表者の授業を何らかの形でインターネット上で公開したい。さらに多読・多聴指導法研究会を通じて、全国の多読指導者による共同選書、レベル分け、指導法の向上を推進したい。

## 2. 研究の目的

平成 20 年度から 22 年度の本研究では学生が自ら外国語獲得の方策を見だし、多読と多聴によって大量の理解可能吸収を果たすことを第一の目的とした。ま

た第二の目的として、多読・多聴の成果を基に適切な支援により、学生が暗記や反復ではなく自らの知識や知恵を英語で発表することができることを目指した。

また、収集しレベル分けした教材をデータベース化し、インターネット上で公開する。

また、それを全国の多読指導者に試用を依頼し、意見感想を聞いて改善する。一方、本研究代表者の授業をリアルタイムでインターネット中継実験を行う。なおリアルタイム中継でセキュリティなどの問題が生ずる場合は授業風景を録画し、ダウンロードにより授業見学できるようにする。

## 3. 研究の方法

大量の多読・多聴素材によって基本的な英語の吸収を促し、それを使って大量のスピーキングを可能にする。

20 年度に公開したデータベースの改良しフォーマットを確定し、多読・多聴指導研究会の会員がそれぞれに新しい教材データを登録蓄積できるようにする。また、20 年度に実施可能になっている多読・多聴授業のインターネット中継（または保存・ダウンロード）を利用して、それにより学生が自律的学習者に成長する様子を全国から逐一観察することが可能になる。むろん学生全員が自律的学習者に成長するわけではない。その様子をも公開し、目的 4 の感想や意見を（目的 4 の研究会などを通じて）述べ合うことにより、本研究代表者とともに指導技術を向上を目指す。

## 4. 研究成果

多読・多聴ともにほぼ目的を達成し、スピーキングについては、当初 90 分授業の間に数分しか話せなかった学生たちが、授業 50 週間後には一人 30 分話し続ける例も出てきた。

また、普及のためにははじめたウェブサイト tadoku.org は一日平均 500 ビューを数え、全国の英語指導者を結ぶメーリング・リストの参加者は 150 名を越え、多読・多聴及び多読・多聴授業の普及に大きく貢献した。

以下は多読普及の大きく貢献したと思われる tadoku.org のウェブページのうち、もっとも重要な多読の解説を要約したものである。

多読って、なに？

多読は外国語で書かれたやさしい絵本からはじめて、大量に読みます。

多読で、どうなる？

肩の力が抜けます！

すると、外国語と対等につきあえるようになります。

そして外国語の文章を日本語に訳さずに理解できるようになり、ついには日本語の読書とおなじように外国語の読書を楽しむようになります！！！！

三本柱

多読を支える三本柱は

多読三原則、  
大量の読みやすい本、  
仲間

です。

一つ一つ説明しましょう。

#### 1. 多読三原則

多読三原則はわたしの提案する多読（100万語多読ともいいます）のいちばん大きな特徴です。一言で言えば、日本語に訳していた癖から抜け出すために、多読三原則を利用します。多読三原則とは・・・

辞書は引かない  
わからないところは飛ばす  
自分に合わないと思ったら、すぐ投げる

##### （1）辞書は引かない！

ほとんどの人は「辞書を引かずに外国語の本を読む」と聞くと、そんなことできるわけない、と考えます。無理はありません。外国語を学ぶには辞書は必須というのが常識です。学校ではいつも辞書の助けを借りて和訳しながら英文を読んできました。そのために、それ以外の「読み方」はなかなか思いつかないのです。

（わたし自身、英語の先生になってから「辞書は引かない」を提案するまでに30年くらいかかっています。）

けれども、まったく学校で英語を習っていないのに、辞書を使わずに英語を読めるようになった例は少なくありません。どうしてそんなことができたのか？簡単です。「辞書を引かなくても楽しめ

る本」からはじめればよい！そして自分でも気づかないほどゆっくりとレベルを上げていけば、そのうちペーパーバックが読めるようになります。通常の「学習法」では必要とされる努力や根性や明確な目標などはいりません。

そのためには気楽に、楽しく、何気なく読める英語の素材が大量に必要ですが、そういう素材はたとえば字のない絵本（書名だけが英語！）であったり、いやというほど読みこんだ日本の漫画を英訳したものだったり、飽きるほど繰り返し見た映画（字幕なら多読、音声なら多聴）だったり、何度もクリアしたゲームの英語版だったり・・・実は結構いろいろあるものなのです。

はじめたばかりのころはどうしても辞書を引きたくなる人もいます。そういう人たちのために、このページの最後で「問者猫」さんのブログから具体的な助言を紹介しています。

##### （2）わからないところは飛ばす！

どんなにやさしい本から読みはじめても、それでもわからない語はあるものです。たとえばいちばんやさしいレベルの絵本にも Dad was stuck. といった表現が出てきます。どういう状況で言う言葉かわかりますか？ぱっとわからなかったらどうするか？

見なかったことにします。無視します。飛ばします。それが多読三原則のその二です。考えこんではいけません！英文を読んでいて、眼に入ってきた語が知らない語だとわかった瞬間、無視して次の語へ眼を走らせます。

これが最初はなかなかむずかしい・・・普通はわからないところがあると先へ進んではいけないような気になります。それもそのはずわたしたちは生まれたときからなにかにつけ、「わからないところは全部わかるようにしなさい」と叩き込まれています。まして英語となると、中途半端は許されませんでした。知らない単語は全部辞書を引いて、わからないところは文法的に分析して、和訳して・・・英語が嫌いになるのも無理はありません。わからなくなるのも無理はありません。わからないところはすべて豪快に捨てましょう！つまり・・・

知らない語は見なかったことにします。でも、その語が文の中で大事な役割を担

っていて、その語を知らないために文全体の意味がわからなかったら、どうするか？ 辞書は引かないまでも、最初に戻ってもう一度考えるか？

いいえその文は見なかったことにして次の文を読みます。その文がまたわからなくて、その次もわからなくて、ついに一段落全部なんのこともわからなかったとします。段落の頭に戻ってもう一度読みますか？・・・読みません。

そう、その段落は見なかったことにして先へ行きます。けれども段落をいくつか豪快に飛ばしているうちに、一章まるまるなんのこともわからなかったりします。その場合は章の最初に戻ってもう一度読むか？ もちろん、読まない！！その章は見なかったことにする！！

ただ、章を飛ばすほどになると、かなり悲劇的な事態に陥ります。たとえば、登場人物が誰が誰だかわからなくなる、主人公が消えてしまう！ そうなったら、多読三原則その三 ↓ を適用します。

なお、「わからないところは飛ばす」こそ多読三原則の真髄だという意見があります。実際その通りで、「辞書を引かない」は「わからない語を飛ばす」と考え、「会わないと思ったら、投げる！」を「わからない本を飛ばす」と考えれば、まさに「わからないところにこだわらないこと」こそ、多読三原則の根本だといえそうです。

(3) 合わないと思ったら、投げる！  
そう、今の自分にはむずかしすぎるとしたら、そこでその本を読むのをやめます・・・ きっぱり、やめます。それを多読では「投げる」といいます。

はじめたことを途中で放棄する・・・ これは日本人の骨に染み込んだ倫理に反します。けれども言葉の獲得では、読むのがつらくなったり、聞くのがつらくなったりしたら、やめなければなりません。結局その方が早く言葉が身につきます。不思議ですね・・・

## 2. 大量の読みやすい本 だれでもゼロから！

このサイトが提案する多読の二つ目の特徴は「だれでもゼロからはじめる」ことです。まだ日本語も読めない小さな子どもかられっきとした英語の先生まで、

普段ペーパーバックを読んでいる人には文字のない絵本からはじめることを勧めます。字のない絵本ならだれでも「読む」ことができます。字のない絵本を何十冊も読んで、次に1ページ一つか二つの語しかない絵本を何十冊か読み、次にはページ印刷された語が三つか四つの絵本を読み、次には五つか六つ・・・と次第に語数を多くしていくと、不思議や不思議、字ばかりのおとな向けの洋書も読めるようになるのです。そのために、多読初期には何百冊あるいは千冊を越えるやさしい絵本や挿絵入りの本を読むこととなります。

また、だれでもゼロからはじめるということは、英語の蓄積がゼロの人からはじめられるということになります。「多読」という考え方は夏目漱石のころからあったようです。そんな昔からあった提案にもかかわらず、つい最近になるまで多読で英語を使えるようになった人はいなかったようですが、一つの大きな原因は多読をはじめる時期の問題だとわたしは思います。

ところが1世紀前の漱石の提案以後も、多読は普及しませんでした。なぜ「ある程度修めた」あとではじめる「漱石流の多読」が普及しなかったのか？ わたしの考えでは次の二つの理由がありそうです。

一つには、「修めた英語」が学校英語の場合、結局辞書から離れられず、「無茶苦茶に沢山読む」ことができない場合があること

二つには、やさしいと言われる言葉ほど栄養豊かで、大切だと思われるのに、「修めた」あとの多読ではやさしい言葉を十分吸収しにくいこと

それに対してわたしは「ゼロから」多読をはじめることを提案したのでした。しかも英語の蓄積がゼロの人だけではなく、なんと「ある程度修めた」人も「ゼロから」はじめることを提案しました。おとなが幼児向けの（一見）やさしい絵本からはじめる——これは多読三原則の一「辞書を捨てる」とおなじく、前代未聞、奇想天外、空前絶後(?)の提案でした。

けれども、「やさしい」絵本は実に栄養豊かな素材です。Oxford Reading Tree や Longman Literacy Land などの絵本は、絵と文字で（一部は音つきで）世界と物語を表現しています。何百冊もあるそう

した絵本に浸ると、言葉と世界とそこに住む人たちのことが自分のことのように感じられます。外国語の吸収にはほぼ理想的な素材と言えるでしょう。またおなじような素材はDVDやインターネット上のサイトでも手にすることができます。

漱石が夢見て、しかし一般には実現しなかった「多読」がいまは絵本やDVDやインターネットを通じて、いよいよゼロから実現できるようになってきたわけです。

### 3. 仲間

多読三原則があって、やさしい本や音声素材、映像素材が大量にあれば多読街道まっしぐら！ いや、そうはいかない場合があります。多読はこれまでの英語学習とあまりに違うので、回りをみると不安になることがあるでしょう。やはり単語や文法を覚えたり、問題集をやらなければいけないのではないかと。このごろ多読が進まないけれど、原因が思い当たらない……

そんなときに強い味方になってくれるのが、多読仲間です。好調なときには喜んでくれて、区切りの語数報告をするとお祝いを言ってくれて、停滞に入るとそっと見守ってくれる——多読仲間はどこにいる？

多読を楽しむ人の数はいまや万を数えるのではないのでしょうか？ その中の数千人は多読村やSSSの掲示板に集っています。この人たちは実にすばらしい人たちで、こんなに気持ちのよい人たちのグループをわたしはほかに知りません。

多言は要しません。どれほど上質な人たちはかは掲示板を見ればすぐにわかります。ぜひこうした掲示板をのぞいて、嫌いだっただ英語と親しくなり、英語を使って楽しんでいる人たちがいることを確かめてください。

掲示板だけではありません。掲示板には現れないけれども、各地の「オフ会」に出席して、さまざまな情報を分け合ったり、励まし合ったり、本を貸し合う人たちも少なくありません。オフ会の敷居の低さは参加してみなければわかりません。遠くからでもちらっとのぞきに行ってみてください。多読村の掲示板には「オフ会の掲示板」があって、各地で開かれる多読好きの人たちの集まりにつ

いてお知らせが出ます。

さらには多読講演会も各地で開かれます。昨年わたしは何十という町で多読や多聴やシャドーイングについてお話をしました。そうした集まりのあと、わたしがそのまま帰ることはまずありません。いつも地元が多読を実践している人たちと歓談のひとつを過ごします。そうした集まりに思い切って入ってみましょう。そこから「多読ってどういうものなのか？」がはっきり見えてくるかもしれません！  
仲間を作ろう！

それからもちろん近くの友達を誘って一緒に本を買ったり、読んだ本の感想を語り合うのも多読の楽しみになります。まず自分ではじめて、おもしろさを実感したら周りの人を誘ってもいいでしょう。多読を楽しむ人たちには、親御さんやお連れ合いを誘う人もかなりいます。わたしはそういう人たちの体験談を掲示板で読んだり、オフ会で聞いたりするたびに、親子や夫婦で英語の本を楽しんでいるほほえましい光景を想像して、うれしくなるのです。

語彙は増えるの？ 文法はやらなくていいの？

ただなんとなく読んでいただけでは英語の力がつくはずはない、辞書で単語の意味をたしかめ、文法で文の仕組みを解明し、日本語に訳してこそわかったといえるのだ、という人がいます。大丈夫です。最初は分からなくて飛ばしていた語も、何度も目にするうちにだんだん意味の輪郭がハッキリしてきます。また1語1語はよくわからなくても、文章ひとまとまりではなんとなくわかってきます。こういうことを繰り返しながら、気がつかないうちに知っている言葉が増えてきます。そして、こういう頭の作業（心の作用？）には文型だの、〇〇形だのという知識は必要ないのです。そうした知識に目や気持ちが囚われると見えなくなってしまうものがあるようなのです。

〔その他〕  
ホームページ等

<http://tadoku.org>

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

**酒井 邦秀 (SAKAI, Kunihide)**

**電気通信大学・情報理工学部・准教授**

研究者番号：80092609

### (2) 研究分担者

ハウザー エリック (HAUSER, Eric )

電気通信大学・情報理工学部・准教授

研究者番号：30361827

金子 克己 (KANEKO, Katsumi)

電気通信大学・技術専門職員

研究者番号：90377036